

テーマ2 多様な体験機会の提供

子どもたちが、身心ともに調和のとれた人間として成長し、他人を思いやる心や豊かな人間性をはぐくんでいくため、自然体験や、芸術・文化体験などの遊びや学習を通して、子どもの発達段階に応じた多様な体験機会を提供する必要があります。

特に考えてほしいポイント

子どもたちが、身心ともに調和のとれた人間として成長していけるために、札幌市はどのような体験機会を提供していくべきでしょうか。

Bグループは、「テーマ2 多様な体験機会の提供」につて話し合いました。

子どもは、様々な体験機会の中で多くのことを学び、豊かな人間性をはぐくみます。こうした体験機会は学校教育等において与えられるほかに、家庭や地域社会など、様々な場面で経験できることがより効果的であると考えられます。しかし、ライフスタイルの変化や地域の人間関係の希薄化などにより、子どもたちの体験機会は減っています。

札幌市は、次世代を担う子どもたちが、規範意識や社会性、他人を思いやる心などを身につけ、豊かな人間性をはぐくむよう、様々な分野において、体験型の事業を実施しています。これらの事業を進めていくうえでの参考とするため、「多様な体験機会の提供」について、子どもたちに意見交換をしてもらいました。

話し合いの中では、「自然とのふれあい」、「川下りやナイトハイクなど学校ではできないような野外スポーツ」、「他の学校の生徒との交流」、「自分たちで育てた野菜や釣った魚を使った料理」、「自然の素材を利用した木工など、エコを意識した遊び」など、様々な案が出ましたが、企画提案書はキャンプに限定して作成してくれました。これは、それぞれの体験機会を別々に行うよりも、複合的に経験できた方がより効果的だからという理由で、子どもたちが考えてくれました。

また、与えられた体験機会にただ参加するのではなく、自分たちで考え、積極的に関わっていきたいという意気込みから、企画提案書のタイトルは、アメリカ大統領選挙での有名なセリフをもじって「Yes, We can ピング」と名付けてくれました。

ワークショップの中では、企画提案書とは別に、体験型事業の周知方法などについても様々なアイデアが出ましたので、基本目標6 - 基本施策3「可能性を伸ばす多様な体験機会の提供」の事業を進めていく中で、今回の意見を参考に内容の充実を図るとともに、子どもの発達段階に応じた多様な体験機会の提供に努めていきます。



企画提案書

Yes. We can ピンク

提案理由

- ・キャンプに行きたか、たから
- ・男女関係なく参加できる野外活動重カをしたか、たから
- ・男女が協力して楽しめる。
- ・自然とふれあいたいから

企画の概要

- ・ナイトハイク
- ・印探し
- ・心霊体験
- ・ライン下り
- ・キャンプファイヤー
- ・自然の動物探し

男女が一緒にできるのは？

- ・きもた"めし。(男女ペアで)
- ・キャンプファイヤー
- ・料理する
カレーや自分たちで
とったものをつかう。

成果目標

- ・自然との調和
- ・交流の大切さ
- ・普通の生活がどれだけ便利かを再認識する
- ・エコで遊ぶ、楽しむ
- ・他人の大切さ